

| | |
|----------|--|
| 氏名 | 田 所 康 徳 |
| 学位(専攻分野) | 博 士(医 学) |
| 学位授与番号 | 博 甲 第 998 号 |
| 学位授与の日付 | 平成 4 年 3 月 28 日 |
| 学位授与の要件 | 医学研究科 外科系 眼科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当) |
| 学位論文題目 | 視空間覚の研究 第 1 報 ゆびさし試験による斜視手術前後のさしこし量の検討 第 2 報 正常被験者におけるさしこし量の検討 |
| 論文審査委員 | 教授 堀 泰雄 教授 増田 游 教授 菅 弘之 |

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

【第 1 報】 共同性斜視の症例で、斜視手術前後にゆびさし試験を行ったところ、術眼ではさしこし量に有意な変化を示すことが多く、非術眼では術眼に比べてさしこし量の変化は少なかった。斜視のない対照群で、時間的間隔をあけて 2 回ゆびさし試験を行ったところ、さしこし量に有意な変化を示す場合があった。手術操作とは無関係に、さしこし量に有意な変化を認める場合があったということは、未知の要因により、あるいは日常的に、視空間覚ないしは眼と手との協調に変化が生じうることを示しているものと思われる。

【第 2 報】 正常被験者を対象として、複数の条件下でゆびさし試験を行った。視標の位置によって、さしこし量には有意差が認められた。明所と暗所とで、さしこし量に統計的な有意差を認める場合があった。検査機器を装着した直後と、その 15 分後とについても同様であった。視空間覚ないしは眼と手との強調は、視覚性情報や時間経過によって影響されるものと推測された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

視空間覚に関する古典的検査法、ゆびさし試験におけるさしこし量の斜視手術前後における変化をしらべ、さらに正常人においても同様にさしこす場合の或ることを明らかにし、その原因につき検討を加えたもので、重要な新知見であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。